

## 第2回 校長会議あいさつ

R.5.4.19 稲垣

色とりどりの若芽が山を染めています。昨日は、一番乗りを誇るように飛び交う燕の姿も見かけました。学校では、たくさんの新たな出会いがあり、子どもたちも笑顔を輝かせていることと思います。

本日は、2点お話しします。

1点目は、学校の船出を確かめることについてです。この2週間、子どもたちは明るく元気に生活できたでしょうか。学級開きに始まり、級訓や1年の目標づくりは、児童生徒の思いを汲んでできているか。どのクラスにも笑顔や歓声がうかがえるか。また、不安を抱えて入学、進級した子はうまく適応できているか。とりわけ、まじめでおとなしい子が安心して笑顔で過ごせているかは最重要視点だと思います。学校経営の方策に足りないことはないだろうか、先生方は気持ちよく教育活動に取り組んでいるか等々、役職者会や運営委員会等でも点検する機会を設け、学校運営の参画意識を高めるとともに、組織力を強めてください。

GWが近づいています。長期の休みにおける児童生徒の生活指導や安全面の指導につきましても、きめ細かな指導をお願いします。特に、不登校傾向や家庭生活の心配される児童生徒への配慮をお願いします。また、教職員の多忙化解消も課題です。児童生徒も勿論ですが、教職員にとっても、日頃、家族揃ってできないことを行う良い機会でもあります。大型連休を有意義なものにするようにご指導ください。

2点目は、子どもたちに育てたい「心」についてです。人間のアイデンティティが醸成されるプロセスの中で、生まれ育った土地や風土とのかかわりは重要であると言われています。子どもたちは、日常の実体験の積み重ねの中で、ものの見方や感じ方など、認識力の基盤を培っていくと考えられるからです。また、自分と異なる他者を理解する姿勢が求められるグローバル教育においても、他国理解の基礎として、しっかりとした郷土理解が大切と言われています。よって各学校でそれぞれ取り組まれている、ふるさとの「ひと・こと・もの」との関わりを深めさせる地域学習は、必要不可欠と言えます。

「シンクグローバリーアクトローカリー」。世界的な視野で問題を捉え、身近でできることから行動しようと言われますが、子ども中心の授業を作るなら、実生活の中にある問題に切実感をもたせて活動が始まり、その追究が世界的な問題につながっていくという、逆の手順の方が意欲化しやすいようです。「SDGs が大切だからリサイクルに取り組もう」よりも、「地域の川をきれいにしよう」「故郷の偉人から学ぼう」「地元産業を知ろう」等からスタートして、SDGs の課題に発展していく方が追究の勢いが出やすいし、学習の拡がりも得られやすいと思います。そして、このような活動の中で、子どもの心をゆさぶるさまざまな出会いがあったり、「ひと・こと・もの」との絆が強まることで、確かなアイデンティティが形成されていくものと思

います。各学校では、このような視点で、今一度、地域学習を見直していただきたいと思います。